

蕨宿の世界

蕨宿は、江戸日本橋から2つ目の宿場町で、本陣が2軒、脇本陣1軒が設置されました。町並の長さは約1,090m、天保14年(1843)の人口は2,223人、旅籠が23軒あり、宿場の周囲には用水路が巡らされています。



商店店先

蕨宿本陣上段の間
大名や貴人が宿泊する部屋です。
蕨宿本陣加兵衛家に残る絵図面を参考に、上段の間を復元しました。



蕨宿に関する古文書や実物資料を紹介しています。
蕨宿の歴史を知るうえで大変貴重なものです。



旅籠



織物のまち・蕨

江戸時代末期から塚越村では綿織物業が盛んになり、「二タ子織(後の双子織)」に代表される縞柄の織物は、品質の良さから江戸(東京)で評判となりました。このコーナーでは、蕨の綿織物業の祖である高橋新五郎に関する資料や、織機・道具類などを紹介しています。

蕨の学校教育

江戸時代の寺子屋に関する資料や、蕨の近代学校教育のあゆみを紹介しています。



蕨の戦中・戦後の暮らし

蕨町(当時)は、昭和20年(1945)に3回の空襲を受け、埼玉県下では熊谷市に次いで2番目に大きな被害となりました。



河鍋暁斎記念美術館紹介コーナー

河鍋暁斎は、幕末から明治期前半にかけて活躍した狩野派の絵師です。南町4丁目にある河鍋暁斎記念美術館では、河鍋家に伝わる下絵や画稿類など、貴重な資料を保存・展示しています。

